

平成29年度 府立桃山高等学校 学校経営計画（スクールのマネジメントプラン）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
○文武両道・自主自律の校是のもと、学習と部活動の両立を図り、知・徳・体の調和のとれた創造性あふれる心豊かな人間の育成を目指す。 ○SSH2期目の指定のもと、「自然科学科」「普通科」それぞれの特色を踏まえ、生徒一人ひとりの個性や能力を伸長させ、魅力ある学校づくりを一層推進する。 ○公立高校の中核校として、次代を担う人材の育成を図るとともに、府民の期待に応える学校づくりを推進する。 ○新学習指導要領をふまえた教育活動を推進する。	成果 (1) 本校の特色や新制度の下での普通科の教育理念、またSSH2期目の指定校としての取組等を中学生・保護者に伝え理解を得て、前年度に引き続き学習意欲が高く本校の様々な取組に高い関心のある入学生を迎えることができた。 (2) SSH事業において、探究型融合教科「GS サイエンス英語Ⅰ」や「GS 教養Ⅰ」など新しい学校設定科目を実施するとともに、普通科課題研究を学校をあげて実施するなど、SSH事業拡大・充実に努めた。 (3) 新制度の下で入学した学習意欲の高い生徒に対し、組織的な教科指導や進路指導の実施に努め、国公立大学現役合格者数を倍増させるなど、希望進路実現に向けた取組を推進した。 (4) 課題を抱える生徒に対して、個別支援計画を作成し、全教職員の共通理解を図りながら、より丁寧で組織的な支援を行うことで、学校生活や学習継続に著実な成果をあげた。 課題 (1) 文武両道・自主自律の校訓を大切にしつつ、生徒層が「変革期」に入った点を踏まえ、一層の授業改善に取り組むとともに、SSH事業と部活動、進学補習等とのバランスに配慮し、生徒の総合力を更に伸ばすための指導の工夫が必要である。 (2) 生徒の進路希望の拡大・実現に向けて、進路指導のさらなる工夫改善を図るなど、卒業後を見据えたキャリア教育の推進に努める必要がある。 (3) SSH事業2期目の中間年を迎えるに当たって、普通科・自然科学科ともども、課題研究の深化・充実を図るなど、全校体制でSSH事業の推進に努める必要がある。 (4) 自転車乗車マナーやスマートフォンの使用に関して継続して生徒への指導を強化するとともに、支援の必要な生徒に対して、引き続き丁寧で組織的な支援に努める必要がある。	(1) ワンランク上の文武両道を実現する取組の中で、生徒が「夢・感動・挑戦」を実感できる学校作りを目指す。 また、生徒が時間を計画的・効果的に活用できるように指導するなど、自主自律を目指した取組の推進に努める。 (2) 生徒の将来を見据えた進路指導を進める中で、進路希望の拡大、希望進路の実現を目指した取組を進める。 とりわけ、校内外の研修を積極的に行うなど、質の高い授業づくりに努めるとともに、AO・推薦入試、センター試験及び二次試験に向けて、計画的・組織的な指導や補習の充実に努める。 (3) SSH事業2期目の中間年を迎えるに当たって、教員研修等を通して、課題研究に向けた共通認識を深め、取組の充実を図るなど、SSHの取組が桃山高校の文化として定着できるよう、全校体制でSSH事業に取り組む。 (4) 基本的生活習慣を確立させるとともに、規範意識を高め、特に自転車の乗車マナーやスマートフォンの利用に対する継続的な指導を進める。また主権者教育については、教科を中心に、引き続き指導を進めていく。 (5) 個別支援計画の作成・効果的な活用など、特別支援教育の充実を図るとともに、適応対策会議・教科会議を活用して、課題を抱える生徒に対する支援に組織全体で取り組む。 (6) 普通科のSS・GPコースのイベント充実に努めるなど、普通科における特色の推進を組織的に行う。 また、HP、広報ビデオ、広報誌等の充実に努めるとともに、本校説明会はもとより、機会を捉えて積極的に様々な説明会に参加するなど、桃山高校が目指すもの、本校の魅力を、効果的にかつ幅広く広報する。

分掌領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
教務部	あらゆる教育活動を通して創造性あふれる心豊かな人間の育成を目指す。	分掌、教科、及び各種会議と連携を取り、行事等を調整して計画する。そのため教科主任会を授業時間内に設定する。			
		1, 2年次における模擬試験等の成績推移を随時分析し、進路指導部と連携して課題の早期発見と対策を考える。			
		様々な活動や取組状況の把握に努め、教職員への情報提供とコンセンサスの共有を図る。			
	生徒の進路希望と将来を見据えた魅力的な教育課程を編成する。	現行教育課程について、カリキュラム検討会議や教科主任会議で課題を検証し対応を考える。			
		平成30年度入学生の実教育課程の編成にあたり、各教科や進路指導部及び教育企画推進部と連携して、生徒の進路希望実現に対応したカリキュラムの具現化に努める。			
		他校や教育関係機関などと連携を深め、教育課程の研究に努める。			
	自主自律の精神のもと、主体的・対話的に学ぶ態度の育成を目指す。	シラバスを活用した主体的・自発的な学習態度の育成を図る。また、手帳を活用して日々の生活や学習計画をデザインさせ、自主（家庭）学習の強化に努める。			
		担任と連携して学習状況の振るわない生徒を早期に把握し、課題解決に向けた対策を充実させる。			
		研究授業、授業評価、教員研修などを活用して授業改善を図る。特に、研究授業の実施方法を検討する。チャイムと同時に授業を始められるよう（ベル着）、教員全体で指導の意思統一を図る。			
		各科目の評定分布を集約し、生徒全体の相対的な学力を踏まえ、適切な評定の付け方について教員全体で共通理解を図る。観点別評価の完全な実施に向けて研修を深める。			
生徒指導部	文武両道・自主自律の精神を育む。	基本的生活習慣の確立のため、全教職員による朝の登校指導を徹底する。制服の正しい着用と身だしなみの指導を徹底する。			
		学校行事をさらに充実させる。生徒会活動及び各種委員会活動の活性化を図る。			
		部活動の入部率を高水準に保ち、文武両道を具現化する。			
	規範意識を高め、良識ある人間性を構築する。桃山高校生として自覚と誇りを持たせ、責任ある行動を身に付けさせる。	交通法規の遵守と交通マナーを高める指導を徹底する。			
		不適切なSNSへの投稿等を含むスマートフォンの使用に関する指導を徹底する。			
		性犯罪の被害防止に努め、特に早い情報収集と全校生徒への注意喚起を徹底する。薬物乱用の未然防止に係わる啓発活動を徹底する。貴重品の管理や防犯意識を高める指導を徹底する。			
	人間の尊厳に対する自覚を高め、自他の生命と人権を尊重する態度を育成する。	いじめ・悪戯・中傷や人権を脅かす行為に対する厳しい指導を徹底する。また、他分掌と連携し被害生徒に対するサポートを行う。			

分掌領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
進路指導部	生徒一人ひとりの希望進路実現に向けて方策を講じる。	通年補習（早朝、放課後、土曜日）、長期休業中補習（夏期、冬期）、国公立二次対策補習（１・２・３月）、個別指導（日常、面接、小論文）を充実させる。			
		模擬試験を有効に活用できるよう時期や模擬試験内容を検討するとともに、部活動と両立できるようできる限りの方策を講じる。また、結果について分析を行い、進路指導につなげる。			
		自習室を開放し、学習アドバイザーを有効に活用し、生徒たちが学習する環境を整える。			
	キャリア教育の観点に基づく生徒のキャリア形成と教職員への啓発を行う。	小論文・志望理由書などの講習会や模擬試験を行い、生徒たちが自分の将来像を描く手がかりを与える。			
		教職員に対して小論文の指導研修を行い、全教員で指導できる体制づくりを行う。			
		外部講師や卒業生を中心とする大学生による講演会を行い、生徒たちが進むべき道に興味や関心を持てるようにする。			
	保護者や校内の他分掌、外部の団体と連携する。	保護者に対して学年ごとの説明会や入試説明会を積極的に実施し、本校の進路指導を広く理解してもらう機会を設ける。			
		教員対象の就職説明会や入試説明会、入試研修会の参加を啓発し、全教員が変化する進学環境に対応できるようにする。			
		学校全体として進路指導に対して一致した指導ができるように、学年部や他の分掌と連携を密にする。			
教育企画推進部 （広報）	前期入学者選抜の円滑な運営を行う。	昨年度の小さな課題を修正して、より円滑な運営を行う。			
	校内のICT教育環境を整備し、教職員のICT利用の環境整備と支援を行う。	関係各分掌と連携して、校内のサーバやコンピューター環境の整備と安定的運用を図る。			
	本校を第1志望として選択してもらうよう、広報活動をより充実したものにする。	＜紙メディアを媒体とした広報活動＞ 関係各分掌と連携して、『スクールガイド』、『学校案内』、『@桃山2017』（年2回の広報紙）、『ポスター』を作成する。			
		＜DVDを媒体とした広報活動＞ 本校の魅力を伝えるDVDを作成し、本校の教育活動を視覚的に伝える。			
		＜中学校等訪問＞ 中学校や関係機関に可能な限り訪問し、本校及び各学科についての説明を行う。			
		＜学校説明会＞ 中学生等を対象に計6回の桃山高校説明会を、また中学校教員等への説明会を企画・運営する。			
		＜ホームページの管理・運営＞ ホームページを頻繁に更新しながら、本校の教育活動に関する情報を積極的に外部に発信する。			
		＜中学生の本校訪問＞ 中学生の本校訪問に丁寧に対応し、本校及び各学科についての説明を行う。			

分掌領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
教育企画推進部 (SSH)	3年間を見通した探究活動を推進する。	「GS課題研究」に、3年生を評価者役や助言者役として参加させる。(3年目：指導的立場)			
		3年間の取組を連続的に把握できるようにアンケート調査を工夫する。			
		3年生での探究活動について、理科やGS科で実施している通常実験を工夫することで実施する。			
	「GS科目」間の連携を強化する。	「GSロジック」と「GSベーシック」と「GS自然科学」の指導内容を比較し、より効率的で効果的な指導方法を検討する。			
		「GSBASIC・GSベーシック（準備）」と「GS課題研究（実践）」と「3年次探究活動（振り返り）」を連動させた指導方法を提案する。			
		「GSベーシック」と「GSサイエンス英語Ⅰ」と「GSサイエンス英語Ⅱ」について、英語力の育成という観点で、より効率的で効果的な指導方法を確立する。			
	成果と課題の見える化を推進する。	次年度以降の科目担当者のために、教材集や指導例集を文書化する。			
		学校ホームページに、開発した教材等を公開する。			
		GS科目のアンケート結果等を、職員会議等で公開する。			
保健部	健康面での自己管理能力と、安全な生活を営む正しい判断力の育成のため、健康・安全教育を推進する。	学校医との連携により定期及び臨時健康診断を適切に行い、速やかな事後指導を通して自己管理の重要性を認識させる。			
		「薬物乱用防止教育」「性教育」講演会や救急処置講習会を実施し、健康で安全な生活を自ら作り上げる意識を醸成する。			
		生徒保健委員会活動（保健だよりの発行や文化祭企画）を通じて、健康安全の啓蒙活動をさらに主体的なものへと進化させる。			
	心身の健康に課題を抱えた生徒への支援の充実を図る。	生徒・保護者に対するカウンセリングの実施、カウンセラーの指導助言と教務部や担任団との情報共有のもと、組織的な対応の充実を図る。			
		特別な配慮を要する生徒に対して教科担当者会議を機動的に開き、必要に応じて特別支援学校の巡回相談の活用や個別支援計画を作成する。			
		要配慮生徒についての情報を教職員全体で共有し、万一の場合に適切な対応がとれるようにする。			
	環境美化について関心を持たせ、環境保全を実行できる能力を育成する。	日常の清掃活動や定期的な大掃除を徹底し、学習環境を清潔・快適に保持するとともに、ゴミの分別、紙ごみの持ち帰り指導を徹底することでゴミの減量化に努める。			
		生徒美化委員会の活動を通じて、主体的な環境美化活動を展開する。			
		定期環境衛生検査（水質・照度・空気・薬品・ダニアレルゲン）を実施する。			

分掌領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
図書部	本校の中核的なラーニングセンターとして位置づけられる図書館を目指した教育環境の整備を図るとともに、生徒の主体的な活動を育成するために、図書委員会活動を推進する。	図書館資料等の充実を図るとともに、コンピューター機器の更新により、図書館業務の安定化を目指す。			
		学級文庫の設置や新刊案内など、図書館外での読書活動の啓発を進め、学校全体で読書活動を深められる機運醸成に努める。			
		年間を通して図書委員による自主的な委員会活動を促進し、生徒目線の親しみやすい図書館を創造する。			
	本校教育の成果向上に寄与するため、関係分掌と連携し質の高い事業を実施する。	芸術鑑賞事業の実施を通して、文化活動を愛好する心情を育てるとともに、豊かな情操を養う。			
		国語科と連携し、校内外における読書感想文コンクールの諸活動を行い、読書感想文集を発行する。			
		教職員による図書推薦や、関係分掌と連携し、SSH事業を中心とする課題研究学習等での利用を積極的に推進する。			
	ICT化時代を踏まえた新しい視聴覚機器・コンテンツの整備や充実を図る。	視聴覚教室及び視聴覚機器の整備、更新、充実を通して、教職員が利用しやすい環境を整える。			
		生徒用PCなどの機器更新を進めるとともに、魅力的なコンテンツの収集を通して、SSH事業をはじめとする本校の特色ある教育活動に貢献する。			
第1学年部	人間性豊かな生徒を育てる。	基本的な生活習慣を確立し、本校の伝統である自主自律の精神を育む。生徒一人ひとりが高いレベルで勉強と部活動等を両立させようとする意欲と態度を育成する。			
		人間の尊厳に対する自覚を高め、自他の生命と人権を尊重する態度を育む。			
		社会的規範意識の向上を図り、社会的責任を自覚させる。			
	主体的に学習に取り組む力を高め、学力の向上を図る。	学習内容の徹底理解に努め、基礎力を養成する。課題の提出等に関して教科担当と連携を密に取り、学習のための心構えを指導していく。			
		高校生としての真摯な学習態度を身につけ、あわせて予習・復習の定着と自学自習の習慣を確立する。自習室等も利用した自主学習1日2時間以上を習慣化する。			
		「学習手帳」と「ポートフォリオ」を活用させ、自らが考え学ぶ姿勢を身に付けさせる。			
	希望進路の実現に向けた取り組みの充実を図る。	自分の適性・能力などの発見に努め、将来の進路を明確にしていく。上級学校について調べる機会を作り、高い目標と意識を持たせる。			
		関係分掌と連携し、文理選択や科目選択等に役立つガイダンスや進路ホームルームを実施する。			
		客観的な学力実態を分析・把握し、適切な評価の在り方を関係分掌と連携を図りながら検討する。			

分掌領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
第2学年部	学年の方針や生徒の状況等を教員間で交流し、他分掌と連絡を密にとりながら効果的な学年運営を目指して協力体制を整える。	分掌内外の発信と受信が学年団のメンバーに明確になるように努める。			
		担任間でクラスの状況や個々の生徒の状況を交流し、学年全体で統一した指導体制を作る。			
		他分掌とも情報を共有し、連絡・連携を密に図り、必要があれば協力を求めて学校としての指導を行う。			
	自主・自律の精神のもと、生徒一人ひとりが主体的に学習する力、部活動や各種行事等にも意欲的に取り組む姿勢を育ててゆく中で、豊かな人間性を身に付けた、成熟した生徒集団の形成を目指す。	ベル着の励行。授業開始、終了の挨拶の徹底。出席状況や課題の提出等に関して教科担当と連携を密に取り、学習のための心構えを引き続き指導していく。また教室の美化に努めることで、学習環境を整え、学習効果を向上させる。			
		挨拶や正しい言葉遣いを指導する。引き続き遅刻防止指導を強化し、基本的生活習慣の確立に努める。研修旅行を控え、集団の中での個人の責任を自覚させ、日常的に実践させる。携帯電話・スマホの使用や自転車の通行マナーについて指導を強化する。個人面談等を利用して、生徒が理解・納得するように働きかけ、信頼関係を築いていく。			
		クラス活動や学校行事について担任間で協力体制を作り、学年全体で運営していく。また部活動等において、生徒一人ひとりが上級学年としての自覚を持って行動できるように指導し、中心的な立場を担わせていく。			
	自然科学科、普通科理系・文系の生徒の希望進路の実現に向け、それぞれのコースに応じた進路情報を提供し、さらなる意識の啓発に努める。	進路指導部と連携してオープンキャンパス等の各種機会を活用して、具体的な進路目標の設定に取り組む。			
		LHRの進路学習を系統的に実施し、必要な進路情報の提供に努める。			
		個別面談を丁寧に行い、生徒の実態把握と必要なアドバイスの機会を拡充する。安易に妥協して進路目標を設定するのではなく、向上心を持ってより高い目標にチャレンジする姿勢を育てる。			
第3学年部	様々な活動をクラスおよび学年全体で協力して取り組ませることにより、やり切ることの充実感・達成感を感じさせる。	部活動については最後までしっかりやり切り、文化祭へ向けてはクラスの中で助け合いながらレベルの高い演劇を創造することで、達成感を味わうとともに、互いに切磋琢磨し、学校全体が個人を応援するムードを作り上げる。			
	進路希望に応じた自発的な学習を啓蒙し、志望校決定へ向けて積極的に取り組む姿勢を醸成するために必要な情報の提供の仕方を検討していく。	昨年度に引き続き、国公立大学の推薦入試等を見据えて、客観的な学力実態を分析・把握し、関係分掌と連携を図りながら進路指導に努める。			
		生徒には「自己の理解」と「大学入試システムの理解」に努めさせるとともに、個々の能力や個性に応じた進路指導を行うための検討会を学年と進路指導部が共同で実施する。			
		スタディーサポートや模擬試験の結果を分析し、課題等を早期に発見して教員の共通認識を図るとともに適切な対策をとる。ベネッセコーポレーションの進研模試デジタルサービスを活用して自発的に学習できるように指導する。			
		LHRの進路学習を系統的に実施し、進路情報の提供と自己理解及び志望校の決定に努める。進路指導部と連携し、上級学校について調べる機会を作り、高い目標と意識を持たせる。			
		学習手帳や種々の資料を活用し、自主学習の十分な時間の確保を習慣化させることを目標とする。また自習室の効果的な利用を促す中で自ら学力を高めることが出来る資質を育成する。			
	基本的生活習慣を充実させ、規範意識や社会性、コミュニケーション能力を高め、成熟した生徒集団を育成する。	自主自律の校訓のもと、自らの行動に責任を持って行動し、高校生として協働性を備え主体的に社会に貢献しようとする志を身に付けさせる。			
		高校生としての挨拶や正しい言葉遣いを指導する。遠方から通学する生徒の増加に伴い、引き続き遅刻防止指導を継続する。また自転車通学の生徒にはルールやマナーを守り、自他共に安全な交通環境づくりに貢献させる。			
		主権者教育の一環として社会と共生するための相互尊重のルールを身に付け、民主的な社会の維持・発展を図るために必要な知識や見方・考え方を習得し国家・社会の形成者としての資質を育む。			

教科領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
国語	生徒の進路希望の可能性を広げられるよう、国語力を向上させる。	公立高校の責務として、桃山高校の国語の授業だけで国公立大学二次試験に対応できるよう、高いレベルの授業を、チームとして展開する。			
		難関大学記述問題対応力をつけさせるための効果的な進学補習を行う。			
	チーム国語科として各学年の学力保障に取り組む。	1年国語総合6単位を、現代文・漢文3単位、古文3単位に分け、複数の教員が担当することで、集団の学力を伸長させる。			
		各学年、各科目担当を、経験や適性、所属分掌等のバランス、進度や内容、問作、評価等の取りまとめ役等を総合的に考え、担当を決定し効果を上げる。科目担当チーフのリーダーシップの下、全員がチームとして教科指導にあたる。			
		個人の手法に拘泥せず、指導方法を共有し、効果的な指導を行う。当該年度の事象への対応に留まらず、常に次年度、次々年度に起こりうる事象を予想し、十分な準備検討をする。特に今年度は大学入試センター試験終了後を見通した対策に着手する。			
地歴公民	基礎的・基本的な知識や技能の定着と活用を図る。	基礎的・基本的な知識や技能について、理解、定着、活用を図るために丁寧な指導を行う。			
		課題、小テストなどを実施し、基礎的・基本的な知識や技能の定着と活用を図る。			
	興味・関心と学習意欲を高め、自ら学ぶ力、考える力を育成する。	板書、プリントを充実させ、資料（写真、統計、史料等）や視聴覚教材を有効に活用する。			
		教材研究、授業研究、研修会等への参加を積極的に行い、教科指導力の向上を図り、質の高い授業づくりに努める。			
		「GS教養Ⅰ」の改善と充実を図る。「GS教養Ⅱ」の実施と充実を図る。			
		主権者教育の重点目標、実施計画にもとづき、指導の充実を図る。			
数学	進路希望の実現に向けた学力の向上を図る。	適切な授業進度を維持しながら、問題演習を実施し、学力の向上を図る。			
		通常の進学補習、長期休業中の進学補習、個別指導等の充実にも努め、学力の向上を図る。			
	学習意欲の向上・自発的学習習慣の形成を図る。	課題や予習・復習の指示を明確に行う。小テスト、定期考査、模擬試験を軸に生徒自身が学習計画を立てられるよう指示を明確に行う。			
		生徒の学力に応じた授業内容の設計を行う。生徒一人一人が“出来る”という実感を得られるよう努める。			
	希望進路の実現と応用的・発展的学力の伸長を図る。	小テストを定期的に行い生徒の理解度を量る。模擬試験の結果から分野ごとの正答率を把握し、授業や指導計画にフィードバックする。			
		模擬試験や入試の問題の演習を適宜行う。			
		昨年度の課題を踏まえた学習計画を実践する。			
		土曜の学習会や、早朝の補習を実施し、生徒の学力伸長に努める。			
	授業の充実・改善に努める。	授業内容・教材を共有する。			
		主体的な学習を促す授業の研究を行う。			

教科領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
理科	生徒の希望進路を実現するために、組織的・計画的な教科指導の充実に努める。	指導方法や実践内容を共有し、授業の質を高める。			
		補習や課題を計画的に実施し、効果的に学力を伸ばす。			
		実験・観察によって興味関心を引き出し、学力向上につなげる。			
	普通科・自然科学科の特色を踏まえ、SSH校にふさわしい授業の確立に努める。	各科目で発展的な学習を計画的に取り入れる。			
		各科目の学習と連動した高大連携講座などの取り組みを行う。			
		アクティブ・ラーニングや実験・観察を重視した授業を行う。			
	新学習指導要領を踏まえた評価方法の改善を行う。	定期考査や、日常の評価項目を観点別評価の視点から見直す。			
		ルーブリックを用いて達成度を客観的に評価する。			
		主体的に取り組む姿勢等、学びに向かう力を評価項目に含める。			
保健体育	体力向上推進プログラムを実施する。	新体力テストの実施と結果を考察する。			
		「体づくり運動」領域を通じて卒業後も継続可能な実践力を身に付けさせる。			
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育成する。	ヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。			
		生涯の各段階における健康の課題について、適切に対応する必要があること及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることを理解できるようにする。			
		環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康にかかわる活動や対策が重要であることについて理解できるようにする。			
	心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育成する。	各領域の運動を通して、公正に取組む、互いに協力する、自己責任を果たす、参画する能力を身に付けさせる。			
		運動の持つ特性や魅力に応じて、生徒一人ひとりの能力に応じた目標を持たせ、自発的な授業の中で思考力や判断力を養う。			
		主体的な取り組みを促すとともに、学校の教育活動全体に運動を積極的に取り入れ、実生活、実社会の中などで継続的なスポーツライフを営むことができる資質を育成する。			
芸術	音楽：学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導の徹底を図るとともに、本校生徒の実態に即した授業展開の工夫に努める。	音楽Ⅰについては、批評活動を積極的に取り入れ、根拠のある表現活動、鑑賞活動に生かしていく。			
		芸術探求については、進学指導を視野に入れた専門的領域(楽典、ソルフェージュ、聴音)を通して個々の生徒の能力を高めていく。			
	美術：美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。	デザイン、絵画、立体表現、鑑賞の各分野を幅広く学習し、その制作を通して何を『考え、感じ、気付く』ことできたかを生徒相互で鑑賞やディスカッションをすることで、作品や授業に対する取り組みの理解を深める。			
		芸術探求では、美術・デザイン・建築系大学において必要とされるデッサンなどの造形実技（国公立大レベル）と日本画や水墨画、仏像彫刻などの日本の伝統的な表現研究についての2つの分野に別けて学習し、創造的な表現の技能伸長とともに美術文化についての理解を深める。			

教科領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
芸術	書道：書に親しむ活動を通して、感性を高め、書写能力の向上を図り、自己を主体的に表現するための書道の基礎的な能力を伸ばす。書の実しさを感知取る鑑賞の能力を伸ばすとともに、書の伝統と文化についての理解を深める。	書道Ⅰでは、基礎基本を確実に身に付け、「漢字の書」「漢字仮名交じりの書」「仮名の書」の学習を通して表現の能力を高め、身近にある題材や自らの思いや感動を表す語句や詩歌を選んで創作へと発展させる。			
		古典の書を学ぶ際に、中国や日本の書の歴史背景に目を向けさせ、ひいては我が国の文化伝統についての理解を深める。また、生活の中に生かされている書道にも目を向け創作意欲を高めつつ、積極的に相互評価を取り入れて、鑑賞の能力を高める。			
英語	英語科として指導法や課題を共有し、授業を充実させる。	普通科1、2年生ではLTC-キヨ指導の一つとして、授業でのリテリング活動等を行い、読み聞かしたことを自分の言葉で表現する指導を行う。			
		GTEC for STUDENTSの実施や年間を通してパフォーマンス評価を実施することで、生徒の4技能の伸びを確認し、授業改善に生かす。			
		授業および補習の内容について英語科全体で共有し、次年度に生かす。			
	基礎・基本の学力定着を図る。	学習意欲を向上させ家庭学習の時間を増やすために、予習と復習で生徒がすべきことを明確に指示し徹底する。			
		授業の内容以外に週末課題、単語や構文に関する小テストを課し、基礎学力の定着を図る。			
	進路実現に向けた学力の伸長を図る。	読解と文法指導に偏らず、4技能をバランスよく指導する。			
		難関大補習や長期休業中の進学補習、3年生土曜学習会を実施する。			
		3年生はセンター試験英語において、自然科学科は8割以上を、普通科は7割以上を目指す。			
家庭	自立して生活するために、「衣食住」「家庭の経済」など生活の事象に関する科学的知識の習得と実践力を育てる。	食分野の講義や調理実習・食品実験を通して、「何をどれだけどのように食べるか」が自分の健康と深く関わりを持つことに気付き実践する力を付けるよう指導する。			
		生きるために必要なお金について知り、収入と支出や消費者としての課題に眼を向けさせる。			
		授業のまとめとして、単に板書を写しただけでなく自分なりの工夫をしたノートを作成するよう指導する。			
	人との関わりを大切に生きてするために、「高齢者」「子ども」について理解し関わり方を実践する。	経済・生きがい・健康という3つの視点から高齢期の現状と課題に眼を向けさせる。			
		「子どもが成長すること」に重点を置き、将来大人として子どもと関わるための理解を深める。			
		自分と異なる世代の状況に気付くため、「シニア体験実習」「保育園実習」「赤ちゃんとのふれあい」「マタニティー体験実習」などの実習を行う。			
	日本の伝統文化に触れ親しむことによって、他国の文化を理解し国際社会に生きる力を育てる。	京都で学ぶ高校生として、「きもの」や「茶道」に触れる体験を取り入れる。			
		「食」の分野では和食と中国料理の実習を行い、それぞれが優れた食文化であることを紹介する。			

教科領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
情報	高等学校での学びを支えるITスキルを身に付けさせる。	基本的なアプリケーションの操作実習を充実させる。			
		コンテンツに併せた適切な表現を課題解決学習により指導する。			
	SSHの指導目標を具現化する教科としての役割を担う。	各科目との連携や高大連携講座などの取り組みを行う。			
		アクティブ・ラーニングを重視した授業を行う。			
	新学習指導要領をふまえた評価を実践する。	観点別評価の考え方を取り入れる。			
		主体的に取り組む姿勢等、学びに向かう力も評価項目とする。			
グローバルサイエンス	3年生の探究活動を提案し実施する。	「GS部の活動」や「GS課題研究」に、評価者役や助言者役として参加させる。			
		校内発表会や外部発表会等で発表させる。			
		理科やGS科等で実施している実験授業を工夫し、探究的な活動とする。			
	効率的で効果的な評価方法を開発し実践する。	ポスター発表評価用ルーブリックを開発し、評価・評定の決定に活用する。			
		昨年度開発した「口頭発表評価用ルーブリック（試行）」を本格運用し、評価・評定の決定に活用する。			
		昨年度開発した「論文評価用ルーブリック（試行）」を本格運用し、評価・評定の決定に活用する。			
	指導内容の固定化を図る。	開始4年目の「GS自然科学」について、モデルの指導内容を提案する。			
		開始8年目の「GSベーシック」について、理念と現実を両立させた指導内容を提案する。			
		各「GS科目会議」や教科主任会議等と連携し、効果的な指導内容や指導方法を検討する。			

学校関係者評価委員会による評価	
-----------------	--

次年度に向けた改善の方向性	
---------------	--